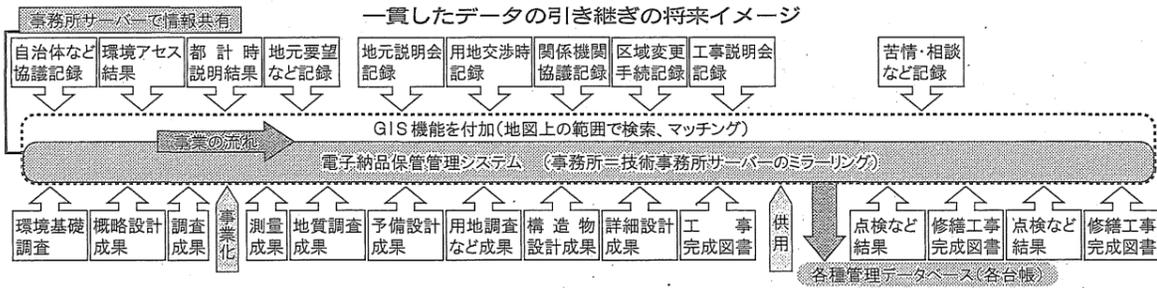
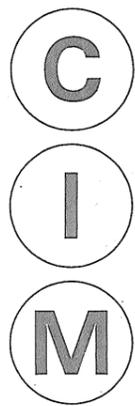


事業初期から一貫データ活用

国交省 BIMを土木分野に展開



3次元データでモデル試行

国土交通省は、土木分野へのBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）の展開として打ち出している「CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）」の考え方を具体的に検討する。「電子納品・保管管理システム」を使い事業初期段階の調査から維持管理・点検まで一貫して同じデータを引き継ぎ、形をシステムの将来像として描いている。将来像に到達するため、まずは3次元データによる設計とそれを使った情報化施工をモデル的に試行する考えだ。

「CIM」は、建築分野で広がりつつあるBIMを土木分野にも広げ、計画から維持管理までICTを活用して最適化を図る考え方で、国交省の佐藤直良技監が打ち出している。国交省の土木工事では現在、納品された電子成果品のうち利用頻度の高いものを格納し、電子成果品が格納されたCD-Rなどの保管場所を一元管理する「電子納品・保管管理システム」を使用している。測量成果や地質調査成果、予備設計成果、構造物の設計成果、工事完成図書、修繕工事完成図書などを格納している。

ただ、現行のシステムでは、例えば地質調査成果などを予備設計成果に反映する場合など各段階にデータを引き継ぐ際は、CDにして各段階の担当者に渡している。格納している成果品が業務委託成果と工事完成図書だけの上、格納した成果品をアウトプットとして使用するのには、ボーリングデータベースと道路管理データベースだけだ。

「CIM」の取り組みの一環では、環境基礎調査などを踏まえたルート決定根拠の調査結果、測量・設計・施工の工事関係成果品のほか、構造物の点検・修繕結果などを3次元データを将来像として想定している。工事記録や点検・補修記録が明確になり、アセットマネジメントに必要な劣化予測や補修計画立案にも活用できる。さらに、システムにGIS（地理情報システム）機能を付加し、自治体との協議記録や地元説明会記録、苦情・相談記録なども格納し、地図上の位置情報と合わせて閲覧できるようにしたい考えだ。事業についての過去の経緯が明確になり、地元対応記録も一元管理できるとみている。

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |

平成24年4月17日(朝)・夕) P1